

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4079300184		
法人名	社会福祉法人 添寿会		
事業所名	グループホーム 添寿の里		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1 (電話) 0947-82-5072		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 2回分200 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名		要支援2	1 名	
年齢	平均 88 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野病院・雪竹医院・きたはら歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の福祉施設の門から続く桜並木を抜けると、木造平屋造りのグループホーム添寿の里がある。玄関には、来訪者の目につきやすいように工夫された、毛筆書きの理念が大きく掲示されており、家族や地域住民、関係者に職員が説明し、理念を共有している。隣接する福祉施設との交流や協力体制により、充実した安心できる暮らしを提供している。これまでに築いてきた家族との信頼関係や、職員・医療連携体制の協力の下で経験したターミナルケアでは、入居者と最期まで寄り添う事が出来た感謝の気持ちで介護職としての意識が向上し、誇りとなっている。今後は更に地域に根ざしたグループホームとして期待されると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価におけるの改善項目であるアセスメントの充実は、全職員で書式の見直しを検討するなど取り組み、改善されつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を行っている。改善点や気づきなど前向きに捉え、全員で改善に向けての取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族代表・行政職員・民生委員・包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回定期的に開催し、行事報告及び意見交換を行っている。さらに活発な会議を行うためにも地域関係者への呼びかけ方法(次回テーマを決めて呼びかけるなど)の工夫が行われている。また、運営推進会議後の時間を利用して、家族や地域の方々との相談会を実施するなど、地域に開かれた取り組みとなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族訪問時に意見や要望を聞きとるように努めている。また家族と職員が気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。家族からの意見は、職員会議で話し合うだけでなく、家族会や運営推進会議でも取り上げ改善に努め、サービスの向上及び運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町役場から町報の配布を受け、地域の行事には積極的に参加するようにしている(老人会・神幸祭・岩石城祭り・清掃活動など)。また地域の中学生の体験学習や、保育園との交流などを積極的に行っている。近所の方々が、散歩の途中にホームに立ち寄り、お茶やコーヒーを入居者と一緒楽しむこともあり、また野菜や花が届けられることもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	玄関には、「地域の人達と共に馴染みのある生活を送り、笑顔でみんな一緒に、あんきにのんきに自分らしい生活を送りましょう」という独自の理念を、和みを感じる毛筆とイラストにて掲示している。		
		理念の共有と日々の取り組み	ホームの独自の理念を、玄関やリビング等に掲示している。朝礼やミーティングでは必ず唱和し、全職員で理念の確認を行い、その実践に取り組んでいる。来訪者にも目に入りやすいように工夫され、家族・地域・関係者にも共有されるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	町役場から町報の配布を受け、地域の行事には積極的に参加するようにしている(老人会・神幸祭・岩石城祭り・清掃活動など)。また地域の中学生の体験学習や、保育園との交流などを積極的に行っている。近所の方々が、散歩の途中にホームに立ち寄り、お茶やコーヒーを入居者と一緒に楽しむこともあり、また野菜や花が届けられることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	評価を実施する意義を職員全員で共有し、見直し・研修になると考え意欲的に取り組んでいる。月1回の会議の中で評価項目を明確にし、改善内容についても検討するようにしている。外部評価を通じて質の向上を図りたいと考えている。		
		運営推進会議を活かした取り組み	家族・民生委員・包括支援センター職員・地域代表・職員の参加により運営推進会議を実施している。行事報告・サービス状況・研修会などの報告を行い、家族や地域の方への相談会も実施している。また、参加者を増やす工夫として、次回のテーマと日程を知らせるようにしている。		

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護福祉課職員との情報交換が定期的に行われている。他にも町報配布や、行事・イベント参加などの情報提供に町役場職員の来訪を受け、サービスの向上につながるコミュニケーションの充実に努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者はいないが、必要な時には活用できるように、内部研修を行っている。家族会や運営推進会議などで議題の一部に取り入れ、制度の紹介と理解に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季節毎に「あんき・のんきだより」を発行している。また入居者本人の手書きによる、年賀状や暑中見舞いを送付し、家族との絆を深めている。家族の訪問時には、入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態について、かかりつけ医から報告するようにしている。金銭出納帳については確認印をもらい、遠方の家族へは3ヶ月に1度、出納帳のコピーを郵送している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際には、コミュニケーションを図るよう心掛け、意見があった場合は、職員会議・家族会・運営推進会議等で報告し、話し合いを行い、運営に反映させるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出ないように、管理者と職員とのコミュニケーションを大切にしている。定年退職・結婚退職・体調不調等で離職した職員がいるが、1ヶ月ほどの引継ぎ期間を設定し、入居者へのダメージを最小限に抑える努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用に関しては、性別・年齢・資格等で対象から排除することはない。人柄・やる気・能力を重視している。また職員の負担軽減のため、バランスを考えた職員配置を行っている。研修等への参加も積極的に支援している。		

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	新人研修や内部勉強会において、個人の尊厳について学ぶ機会をもっている。ケアの現場では、入居者の誇りや尊厳を損なわないよう、職員間の相互確認や、話し合いを徹底している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員一人ひとりの能力に応じて、研修に参加できるようにシフトを配慮している。また資格習得を希望する職員に対しては、学習の時間が確保出来るよう協力している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者同士の交流は、サービスの質の向上につながると考え、積極的に行っている。施設訪問やグループホーム間での見学や情報交換を行ったり、職員親睦会等を通してコミュニケーションを図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に面談・見学・体験入居を行っている。頻繁に家族や本人と会話をし、情報を得るようにしている。相談から入居にいたるまでの過程で、不安をできるだけ軽減出来るようコミュニケーションを図り、馴染みの関係を構築できるよう努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	季節ごとに植物の生育や収穫を楽しみ、漬物や調理の味付けを教えてもらったり、地域の歴史を学んだりすることがある。日々の暮らしの中で、感謝の言葉を伝えることを大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族との会話の中から、思いや意向を汲み取るようにしている。聞き取りが困難な場合は、表情や行動から把握するよう努めている。今後、アセスメントの様式を充実させ、生活歴・生育歴の把握、情報の共有化により、入居者の全体像を把握しようと考えている。</p>		<p>フェイスシート作成の工夫に取り組んでいる。日々のケアにおける「気付き」の記録を職員全員で取り組むことにより、アセスメントの充実・本人本位の支援へと繋がると考えます。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・職員参加の担当会議を3ヶ月毎に開催している。毎月のモニタリングや日々のケアでの気づき・会話の中から得た情報に基づくアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		<p>看護計画と介護計画を連動させることにより、さらに充実した内容になると考えます。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、また状況に変化があった場合に、本人・家族・職員の意見や、往診・受診時の医療情報提供書を参考にし、新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況に応じて、通院の同行や入院の付き添いへの柔軟な支援を行い、また早期に退院できるように支援している。同法人の福祉施設合同行事(和太鼓の競演・チアダンス・神楽など)に参加するなど、スケールメリットを活かした取り組みがある。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望により、入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。本人・家族への十分な説明・同意を得て、適切な健康管理に努めている。</p>		

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者・家族の意向を大切に、家族の協力・医療との連携により、ターミナルケア・看取りを支援している。本人の意思を尊重する事の大切さを全職員で感じ、また家族の感謝の言葉が日々の仕事への誇りに繋がっている。今後も本人と家族にとって、安心できる暮らしの場として、寄添って行きたいと考えている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として、また一人ひとりの個性を尊重した言葉かけを行い、誇りと尊厳を損ねないように努めている。個人ファイルや書類は、鍵付きの書棚に保管されている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、ホームの理念でもある「自分らしい生活」を大切に、個別の日課表が作成され、日々の一人ひとりの生活リズムや状態に合わせて、自由に過ごせるように支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>平日は業者によるバランスのとれた食材を活用し、日曜日は自由献立とし、入居者の好みや希望をメニューに取り入れ、入居者と共に買い物に出かけている。食材の下ごしらえや食器洗い、台拭き等を職員と一緒にしている。また、おやつ作りも楽しみの一つになっている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の希望に沿えるように、毎日入浴できるようにしている。入浴拒否の方には無理強いせず、声かけや対応に工夫し促している。個浴にて気持ちよく入浴できるように努めている。</p>		

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味・希望に応じて、その日その日できることを楽しんでもらえるよう支援している。カラオケ・詩吟・習字・ガーデニング等特別なことではなく、日々の暮らしの中での喜びを感じてもらっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調、天候に応じて、外食やドライブ、散歩道でのつくしやせりを摘み、花を見ることで季節を感じてもらうなどの外出を行っている。また、家族の協力のもと、馴染みの友人宅へ訪問したり、買い物支援など、社会性の維持に繋がる支援も行っている。		
など					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やバルコニー等にチャイムを設置し、安全確認や所在確認を徹底しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。職員はさりげなく見守り、付き添っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回、消防署立会いのもとに実施されている。近隣施設との協力体制は築かれているが、地域住民との協力体制が課題となっている。運営推進会議を通して災害時緊急連絡網を作成し、地域住民を含めた協力体制を整えたいと考えている。		運営推進会議には消防署職員の参加もあり、災害時の地域との連携体制について検討を行っている。今後の取り組みに期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は細かく記録に残している。入居者の状況に応じて食事形態が工夫されている。また、食事での栄養・水分摂取が不十分な方には、医師の指示により栄養補助食品やスポーツ飲料・ゼリー等で対応するなどの配慮を行っている。		

グループホーム 添寿の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は全体的に広さと明るさを感じ、ゆとりある空間となっている。玄関ホールには季節の飾り物(七段飾りの雛人形など)や花が飾られ、季節を感じることができる。また地域の方々が行事で使用した和風を和室に飾るなど、地域との馴染みの関係を垣間見ることができる。入居者によって作られた貼り絵や行事の写真など、家庭的な雰囲気が感じられる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入り口には表札や写真が掛けられ、認識がしやすい工夫がみられる。仏壇・装飾品・家族の写真など、一人ひとりの馴染みの物が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。ミニテーブルセット・ベット・エアコンが備え付けられた部屋は、プライバシーに配慮された居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			